

就業会員の声

大阪商業大学豊山ゼミナールは平成29年2月13日、剪定作業をしておられる就業会員にインタビューを行いました。ご協力いただいた3名の会員の皆様、ありがとうございます。インタビューで行った質問内容は以下の4つです。

- ① シルバー人材センターに入会したきっかけ
- ② どんなときにやりがいを感じるか
- ③ 就業を通して得たこと
- ④ センターへ入会を考えている方へひとこと



入江 芳一 さん

① 知り合いからの紹介です。色々な仕事があると聞いて入会しました。
② この仕事は作業が完了したときに最初と違いが分かることです。どんなに疲れてもやっ

いうやりがいを感じます。

③ 発注者の方と、我々の知識や庭の悩みなど様々な話をしたりして、人との関係で成り立っているんだということを学びました。

④ 人と人の触れ合いが人生を楽しくしてくれ、年を忘れて一生懸命になることができます。またそこにやりがいも感じるんじゃないかと思



松井 啓泰 さん

① 自分の持っているものや、趣味をいかしてして仕事ができたらいいなと思って入会しました。

② この歳になってもまだ好きな植物をいじりながらいい天気のもとで仕事ができるということ。そして発注者の方に喜んでいただけるということ

③ やはりいろんな方との触れ合いですかね。いろんな方と親睦を深めていけること、人と人の触れ合いが最高の幸せだと感じます。

④ 今まで皆さんがそれぞれ経験されてきたものを仕舞っておくのはもった

いない。センターに入会することが、自分を生かすベターな道なんじゃないかと思



木村 勇 さん

① 息子に勧められて入会しました。

② まず自分自身が楽しんでやろうと思っています。お得意さんに気に入っていただけるような作業をしていきたいと努力しています。

③ 剪定させていただいた方から、「どないしてますか」いうことで連絡をいただくことがあり、ものすごくうれしく感じて

④ センターにはいろんな仕事があります。一度入会して、自分の力を発揮したらいいと思



これまでの「就業会員の声」は、会員の方が就業している現場に向いて作成していました。今回は、剪定班向けの安全講習会の機会に、セクターでインタビューをおこないました。そこで特別企画第一弾として、座談会方式で自由に語っていただきました。

問：剪定ではどんな苦労がありますか？

松井…しんどさよりも剪定自体が生きがいのようなになってます。剪定の仕事も花といっしょで、一度咲いたら、しばらくは見るの楽しみでしょ。剪定もそれといっしょです。

入江…やはり春夏秋冬ありますから夏は暑いし、冬は寒い。年中やってますからね。桜が咲いたり、秋は秋なりの花が咲いたりするのを目にしています。そういうのを見ると自然と自分とが溶け合っているような感じをもつことがあります。もちろんつらいときもありますけど、それはしょうがないと思っています。

木村…今、入江さんが言われたこととほぼ同じなんですけど、暑いときも寒いときもあります。でも今までやってきましたから慣れていきます。仕事には無我夢中で取り組むという感じですね。



東大阪市シルバー人材センターの剪定『プロ集団』

問：お客さんにどんな言葉をかけられたことがありますか？

木村…お客さんに気に入ってもらえるような作業をしているという自負があります。みなさん、喜んでくれてい

ます。

入江…お客さんもそれぞれに感じ方が違います。この前、剪定して帰ったあとに、お客さんから「シルバーって、こんだけの技術があったんか」って言われました。本当にびっくりされていて、「ありがとう。また、いやずっとお願ひしますね」って。お客さんから気を遣っていたこともありません。梯子で「落ちんといってくださいね、ケガせんといってくださいね」って言葉をかけてもらいました。触れ合いが一番ですね。

松井…一番うれしかったのは、お客さんから「情緒のある剪定をしてほしい」と言われたときです。お客さんは「この木を切らないで」っておっしゃるもんですから、「私に任せてくれますか」ということで一任していただきました。剪定を終えた後、なぜこの木を切ったのか、低くしたのかを説明しました。とても納得してくださり、「来年もよろしく」とのことでした。最高の誉め言葉でした。

◆編集者からひとこと

インタビューを終えて「セクターに剪定のプロ集団がいる」ってつくづく思いました。